

授業の具体的展開例

人物クイズ作成に向けての導入

- T: Do you know who this is?
S: Yes, that's Hideki Matsui.
T: Good! Where in Japan was he born?
S: He was born in Ishikawa.
T: Yes, he was. Where does he live now?
S: In New York.
T: That's right. He went to New York in 2003 and he lives in New York now.
松井選手はヤンキースで6年間プレーしているのですね。
Is he a soccer player?
S: No, he isn't. He's a baseball player.
T: Tell me the name of his team.
S: New York Yankees.
T: Very good. Look at the blackboard.
Fill in these blanks.

This is (a man) () is from Ishikawa.

This is (a man) () plays baseball.

This is (a man) () lives in New York.

※「関係代名詞 who」のカードを用意しておき、説明しながら完成させる。

※従属節が前の名詞を修飾していることを記号化して説明し、日本語との語順の違いを意識させる。

グループ活動における展開

- T: ワークシートにあるプロフィールの情報を見て、人物クイズを作成しましょう。その時、関係代名詞を用いて表しましょう。その人物について与えられた情報以外で知っている情報があれば、それを加えても構いません。

〈例 松井秀喜〉

- 1974年 石川県生まれ
- 10歳(小5)から野球を始める
- 1993年～読売ジャイアンツ
- 2003年～ニューヨークヤンキース
- 2010年～ロサンゼルス エンゼルス

〈クイズの例〉

- He is loved by many people.
- This is a man who is from Ishikawa.
- This is a man who plays baseball.
- This is a man who lives in New York.

「活用」の力を育てる評価の工夫

クイズ形式による表現活動を取り入れ、楽しみながら知識を活用させる。

問題の作成に当たり、ヒントとなる表現の難易度や提示順番を工夫したり、既習事項を積極的に取り入れた内容にしたりするなど、生徒の創意工夫を推奨する。

辞書の活用も奨励するが、学級全体で共有できる語彙で伝えることに注意させる。

単に質問とその解答という活動だけでなく、出題者への質問、質問に対する返答などの場面を設定し、積極的なコミュニケーションをさせる。またその積極性を評価する。

「活用」の力を育てる評価の視点

人物のプロフィールを用いた例文を提示するため、各グループが作成する英文がパターン化することは避けられない。しかし、関係代名詞を用いながら、クイズを作成するという目的を達成する過程において、既習の表現が実感を伴って定着していく。

さらに、家庭学習とも連携させながら、個々の生徒に人物クイズを作成させることで既習内容がより確かな知識となり、それを活用する力が身に付く。

評価規準としては次のことが考えられる。

- ① グループ活動で互いに意見を交わしクイズが作成できる。
- ② 人物のプロフィールを見て、その内容を参考にクイズが作成できる。(関係代名詞の活用)
- ③ 関係代名詞等を用いた独自の英文を作ることができる。(既習事項の活用)
- ④ 質疑応答をしようとする。

